＊この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。 無断転載、複製を禁じます。

静岡新聞 2023 年 12 月 27 日 付

論壇

2023年 日本経済の出来事

東京大名誉教授（国際経済学）
伊藤 元重

2023年という年に起きた日本経済の大きな出来事は何か？ あるテレビ番組の依頼でそうしたことを考える機会があった。三つの出来事を挙げることにした。

まず、今年の春闘での賃上げの規模が30年ぶりの大きさであったこと。二つ目に4月に日本銀行の総裁が交代し、黒田東彦総裁時代の金融政策から10年ぶりの大きな転換が行われるだろうということ。そして三つ目は、特定の時期の出来事ではないが、対話型人工知能（AI）「チャットGPT」に代表される生成AIが多くの人に知られるようになり、AIによって社会がどう変わるのか国内外で議論が広がっていることだ。

賃上げは日本経済の底上げには重要な要素である。世界的な物価上昇の中で日本の物価も上昇し、賃金が上がらなければ人々の実質賃金が下がってしまう。その意味では3月の春闘での値上げ幅が大きかったことは良いニュースである。ただ、その後の賃上げの状況は必ずしも十分ではなく、来年の春闘でも同じような大幅な賃上げが続くかどうかが注目される。

日銀総裁の交代は、黒田前総裁時代が2期10年続いたということ、デフレからインフレに時代は大きく変わりつつあるということで、来年以降の金融政策運営の変化に注目が集まる。植田和男新総裁は金融政策の正常化を打ち出しており、イールドカーブ・コントロールの廃止（長期金利のコントロールの停止）、マイナス金利政策の撤廃、量的緩和の修正などが、行われると期待される。すでにイールドカーブ・コントロールは修正の方向に動き、それを反映して長期金利の上昇の動きも見られる。ただ、足元で米国の長期金利の下落の影響もあり、日本の長期金利の動きも微妙な状況だ。

ただ、イールドカーブ・コントロールを修正すれば、次はマイナス金利政策の撤廃が来ると予想される。日銀幹部の発言によって市場の見方は大きく振れ、それを受けて為替レートが大きく円高方向に動くこともあった。常識的に考えれば、来年のそう遅くない時期にマイナス金利政策は撤廃されると思われるが、その時期を巡る思惑で市場は揺れることだろう。

最後に生成AIについてコメントしておこう。チャットGPTが公開されたのは、22年の11月のことである。当然のことながら今年の年初の時点では、チャットGPTや生成AIについて知っている人は限られていた。それから1年たって、これほど急速に生成AIについての関心が広がったということは驚きである。書店にはチャットGPTや生成AIについての書籍が積まれ、ビジネスや教育の現場でも生成AIをどう利用するのか、あるいは利用をどう制限するのか議論が高まっている。私が接する学生たちはチャットGPTを活用しているようだし、企業の現場でも生成AIを導入する動きが顕著である。

賃上げ、金融政策の修正、そして生成AIの普及は、いずれも来年の24年に向けての経済の大きな潮流の中心にある動きである。国内外の政治や安全保障で厳しい動きが続く中で、経済については明るい方向で動いていくことを期待したい。